

# 平成27年度 南アルプス市立若草小学校 第一回自己評価書

若草小学校  
校長 森田 亨

## 本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

## 本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。

## 1 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対する回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
  - 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

## 2 全体評価

### I 学校生活について

#### 【考察】

#### 1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と感じている割合は、児童・保護者ともに高い。肯定的な回答の中で「ほぼ」の割合は保護者の方が高く、やや児童との感じている割合に相違がみられる。1年生・2年生・5年生の中で、「そう思わない」と回答している児童が5.2%いる。すべての児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図りたい。

#### 2の項目「みんなで力を合わせががんばっている」について

学校生活を送る上で、良好な人間関係を築いていくことは大切である。一人ひとりが学級への所属意識を持ち、存在感を味わうことが大切である。今回のアンケートでは、「みんなで力を合わせががんばっている」と感じている割合は高く、1年生児童と6年生保護者を除いて「そう思わない」の割合は0%であった。5年生児童の肯定的な回答の「そう思う」の割合が43.9%とやや低い。2学期以降学年の様子を観察し改善を図りたい。

#### 3の項目「困った時に誰かに相談できる」について

児童は、日常生活の中で様々な困難に遭遇する。一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることはとても大切である。肯定的な回答は9割を超え、概ね満足できると考えるが、9.1%の児童が否定的な回答をしている。また、保護者の中にも「あまりそう思わない」という否定的な回答が6.4%見られた。相談しにくいと回答した児童の存在をしっかりと認識し、一人ひとりの児童に注意深く目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていきたい。

#### 4の項目「あいさつ」について

児童会やPTAの協力も得て、学校全体であいさつ運動に取り組んできた。児童のあいさつに対する意識の割合は高いが、保護者の否定的な割合は14.9%と高い。学校や地域の中で元気よくあいさつができるよう今後もあいさつ運動の取り組みを充実させていきたい。

#### 5の項目「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動はとても進んでよくやっている。これからも校内美化や環境整備に努め愛校心を育てる教育活動を展開していきたい。

#### 【改善策】

- ◆「困ったとき…」については、「そうした場合には遠慮なく話そう」ということを指導していきたい。(1年)
- ◆一人ひとりを観察し、個別対応をしていく。困った時には、いつでも悩み事や相談を聞いてあげるという教師の姿勢を伝える。あいさつについても、クラスで取り組んでいく。(2年)
- ◆あいさつ運動を継続したり、家庭でもあいさつするよう協力してほしいことを伝える。(3年)

- ◆保護者に学校の取り組みを知らせたり、家庭でも習慣化できるよう働きかけていく。(4年)
- ◆クラスや学年の活動の中で、協力する場面を増やしていく。その中で人間関係づくりを進めていきたい。(5年)
- ◆家庭や地域でもあいさつをするように呼びかけていきたい(6年)

## II 学習指導について

### 【考察】

#### 1の項目「学校の授業がわかる」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を送る上で最も大切なことの一つである。児童は肯定的な回答が90%以上の学年が多く(2年生89.6%)、概ね満足できる結果である。保護者の回答も肯定的な意見が多いが、「そう思う」の割合が1年生以外はすべて児童を下回っている。今まで以上に授業改善に努力していく必要がある。特に1年生及び2年生で否定的な回答をした約10%近くの児童に対し、授業を楽しく感じられるように、基礎基本を大切にしたわかる授業を展開していきたい。

#### 2の項目「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

話を聞く態度の育成には、校内研究会等を通し全職員で研究を進めてきた。児童の肯定的な回答が多く、集中して授業に取り組んでいる。しかし、保護者は高学年になるに従い「そう思う」の割合が低下している。5年生の保護者では14.7%が否定的な回答をしており、授業改善を図り保護者への理解を深めていきたい。

#### 3の項目「授業中の発言」について

発言をすることに対して、特に高学年での「そう思う」の割合が低学年に比べて低い。5年生では、40%を超える児童が否定的な回答をしている。自分の考えを伝え合う学習を取り入れ、授業方法を工夫してきたが、課題が見られた。

#### 4の項目「宿題や自主学習」について

家庭学習については、保護者への理解に課題が見られた。そう思うの割合が低く、否定的な回答が2・3・5年生では、20%を超えている。学期1回行われる家庭学習強化週間などを通し、呼びかけを行ってきたが、十分な成果が上がっていない。学力の定着において家庭学習はとても大切である。家庭の協力を得ながら、今後も十分な定着が図れるように指導をしていきたい。

### 【改善点】

- ◆全員が発言できる機会を設けるなど工夫を続けていく。(1年)
- ◆宿題については、進んでできるよう励ましの言葉や内容を工夫し、「やりたい」という意欲を持たせるようにしていきたい。(1年)
- ◆今後も個々を大切にす指導を心がける。1年時と比べ、漢字も学習内容も難しくなった。二学期の九九の学習も踏まえ、保護者の協力も得ながら家庭学習を取り入れ、内容の定着を図る。(2年)
- ◆授業の中で発言する場面設定を多く取り入れていく。また発言しやすい学級の環境づくりに心がけていく。家庭学習の習慣が身につくように、お便り等で保護者にお願いしていく。(3年)

- ◆学年×10分の家庭学習の時間の確保を全校的な取り組みとして強化していく。強化週間を学期2回、3回と増やし、保護者の負担も減らすようにカードは簡単なものとする。(4年)
- ◆授業の中で発言をする活動を今まで以上に取り入れていく。(5年)
- ◆何でも言える学級の雰囲気づくりや工夫をしていきたい。(6年)

### Ⅲ 生徒指導について

#### 【考察】

#### 1の項目「きまりや約束を守る」について

児童の生活の中心は学校生活であり、学校の約束や決まりを守り生活できることはとても重要である。児童も保護者もほぼ90%以上が肯定的な回答をしており、満足できると考える。一方、3.5%の否定的な回答をした児童も存在している。一人ひとりの児童にしっかりと目を向け、指導にあたりたい。

#### 2の項目「いじめや悪いことをしたら先生や友だちに言う」について

いじめや非行行動に対し、先生や友だちに言えると多くの学年で肯定的な回答の割合は高い。しかし、3年生14.8%、5年生20.4%の児童が否定的な回答をしている。いじめや非行行動の未然防止や早期発見・早期対応は重大事案に対処する基本であることから、いじめや悪いことをしている人を見たら早期に先生や友だちに伝えることに重点を置いて指導していきたい。

#### 3の項目「学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる」について

いじめのない学級づくりは、最も大切にしたい学級経営の一つである。保護者の回答では11.8%の否定的な回答があった。特に高学年で否定的な回答がやや高い。全ての児童がいじめのない居心地がよいといえる学級づくりを目指して学級経営にあたりたい。

#### 【改善点】

- ◆学校での指導の様子について、学年部会やおたより等で知らせていく。(1年)
- ◆今後も児童一人ひとりをしっかりと見守り、学年として歩調を合わせ指導していく。(2年)
- ◆みんなで成長していけるように、悪いと思うことは注意しようとする態度を育てていきたい。(3年)
- ◆直接言えないことを補う意味で、毎学期アンケートをとることや、年2回のQU検査の分析と活用が重要である。(6年)

### Ⅳ 学校経営について

#### 【考察】

#### 1の項目「学校行事」について

「学校行事は、子どもたちが楽しく参加できるように実施されている」の項目について、肯定的な回答が90%以上であった。児童は行事を通して多くのことを学んでいく。充実した学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きいと考える。運動会や学芸発表会など、学年の実態に合わせ趣向を凝らした内容となっている。今まで積み重ねてきた伝統を大切にし、児童にとってより有意義な学校行事が展開されるよう努めたい。

## 【改善策】

- ◆今後も学校・家庭で協力しながら、開かれた学校を進め、目指す子どもの育成を進めていく。(2年)

## V 研究について

### 【考察】

#### 1の項目「校内研究会」について

県教委や市教委の指定を受け、大きな研究の成果を得ることができた。その研究の成果を引き継ぎ、若草小教育を実践し発展させてきている。100%の職員が主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答している。しかし、「Ⅱ 学習について」の項目の中で、授業が分からないと回答した約1割の児童、聞く態度や発言することに否定的な回答をしている児童へのきめ細かな指導が求められている。また、家庭学習の在り方については保護者に十分な理解が得られていない。今後もさらに研究を重ね、個々の授業改善を図り児童の学力向上に努めていきたい。

#### 2の項目「特別支援教育」について

特別支援教育に対する校内支援体制については、96%の肯定的な回答があった。本校は特別支援クラスが4クラスあり、また普通学級の中にも支援を必要とする児童が在籍している。学期に数回行われる特別支援校内委員会や夏季休業中の特別支援研修会等を通し、児童の情報交換を密に行い全職員が共通理解した上で支援を行っている。一人ひとりを大切に、ともに学び合う学校づくりに努めていきたい。

### 【改善点】

- ◆特別支援の校内支援体制は市単の増員を今後も市に訴えていきたい。(1年)
- ◆2年生は「授業が分かる」の項目で「そう思わない」と回答した児童の割合が他学年より高い。校内研究会など一人ひとりのボトムアップを図る研究を進めていきたい。(2年)
- ◆これまでの積み重ねを大切にしながら、さらに研究を深め、授業改善に努めていく。(6年)

## VI 施設・設備・安全管理について

### 【考察】

#### 1の項目「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心で安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。保護者からは高い評価を得ている。安全点検、訓練、設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止について努力していることが評価されている。

#### 2の項目「安全確保や事故防止」について

子どもたちの安全確保や事故防止についても、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。また、保護者と連携し通学路の安全点検や登校指導を行ってきた。今後も、保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育を推進していきたい。

### 【改善策】

- ◆もっともっと積極的に市に働きかけたり訴えたりし、老朽化を改善してほしい。教育備品についても、使いづらく古いものが多いので、予算の増額をお願いしていく。(1年)
- ◆校内、教室内の環境美化や安全点検にしっかり努める。(2年)
- ◆施設は古いが、定期的に安全点検を行い環境整備にあたっていることを積極的に伝えていく。(6年)

## Ⅶ 保護者・地域住民との連携について

### 【考察】

#### 1の項目「情報発信」について

各種お便りや授業参観や学校行事の計画など、肯定的な回答が90%を超えている。保護者からの相談や要望に適切に対応しているについても高い評価を得ているが、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、今後もさらに協力して良い連携をとっていけたらよい。

#### 2の項目「授業参観 学校行事」について

本校では、月に1度を目安に授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。授業参観や学校行事の持ち方についてはとても良い評価を得ており、今後も保護者や地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。

#### 3の項目「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

肯定的な回答が90%を超えており、職員一人ひとり努力している様子がうかがえる。「そう思う」の割合がやや低い傾向にあり、5.2%否定的な回答もみられる。また、保護者と教職員とを比較するとやや開きが見られる。これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていきたい。

### 【改善点】

- ◆各種お便りや授業参観を通して、引き続き連絡を密に取り合っていきたい。相談や要望に対応できるよう、あたたかい関係を築いていきたい。(1年)
- ◆情報の伝達、相談、情報交換を引き続き大切にしていく。(2年)
- ◆保護者と教職員の間にながかな意識の差が見られる。今後も保護者の声に丁寧に耳を傾け対応していきたい。(6年)

## Ⅲ まとめ

「Ⅱ 全体評価」で説明したように、アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、1学期の段階で課題となっていることがある。

それらをまとめると、次のようなことになる。

### 【学校生活について】

- 学校が楽しいと思わない否定的な回答をした児童にしっかりと目を向け、児童一人ひとりをしっかりと見守っていききたい。
- あいさつ運動については、児童会・PTA・地域の方々とも協力し合いながら、今後も取り組んでいきたい。

### 【学習について】

- 授業中に発言や質問、意見を言うことをさらに増やしていきたい。自分の意見を発表して友だちと学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表がおこなえる雰囲気のある学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。
- 学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。家庭学習推進期間の設定回数を増やしたり、家庭学習の内容や方法を工夫したりして、家庭学習を充実させていきたい。保護者の理解と協力ももてたい。

### 【生徒指導について】

- いじめや非行行動に対する未然防止や早期発見について、いじめや悪いことをしたら先生や友だちに言えることが最も大切なことである。保護者からは、学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいるについての否定的な回答があった。学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたりたい。

以上のような課題から、特に今年度取り組む重点項目を次のようにまとめた。

#### ○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・児童会の「いいところ探そう大作戦」などの取り組みを活かし、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進める。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、活動の振り返りを行っていく。

#### ○PTA や地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・児童会を中心に、今まで以上にあいさつ運動の取り組みを進めていく。
- ・校内のあいさつ運動と連携し、保護者や地域にもあいさつ運動のお願いをしていく。

#### ○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていく。
- ・学年やクラスで、特定の児童だけではなく「全員発言」などの取り組みを行う。

#### ○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間のさらなる充実を図る。
- ・学年や学級単位で、ミニ強化週間を設け家庭学習の定着を図る。

#### ○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・いじめ撲滅宣言などの取り組みを、児童会が中心となり全校で進めていく。
- ・いじめのない学級づくりの取り組みを、お便りや部会の中で保護者に伝えていく。